

NEW CLOSET STYLE SELECTION

長野県・プレゲンス邸

構造：木造在来工法
建物年数：5年
家族構成：独身
敷地面積：1112.9㎡
延べ床面積：82.35㎡+38.51㎡
総工費：**3400万円**
(2100+1300万円)

#4

離れをチャペルとして独立させた アネックス付きウィークエンドハウス

華やかな都会の喧騒と、豊かな自然に囲まれたカントリーライフ。
互いに相反する2つの居住環境を手に入れたいなら、
“ウィークエンド・ハウス計画”はいかがでしょうか？
東京と長野を行き来する、ある米国紳士のライフスタイルをご紹介します。

text/Yoshiro-YAMADA (山田芳弘) photo/Yoshiaki-AMADA (雨田芳明)

Call:03-5456-5134 (術)連健夫建築研究室
address:〒150-0031東京都渋谷区桜丘12-8渋谷コーポラス209
http://www.geocities.co.jp./Hollywood/8372

屋根から地面に達する曲線を描く梁は、流れ落ちる滝を表現したモノ。大きな開口部からは、自然の景色をリビングから眺めることができます。





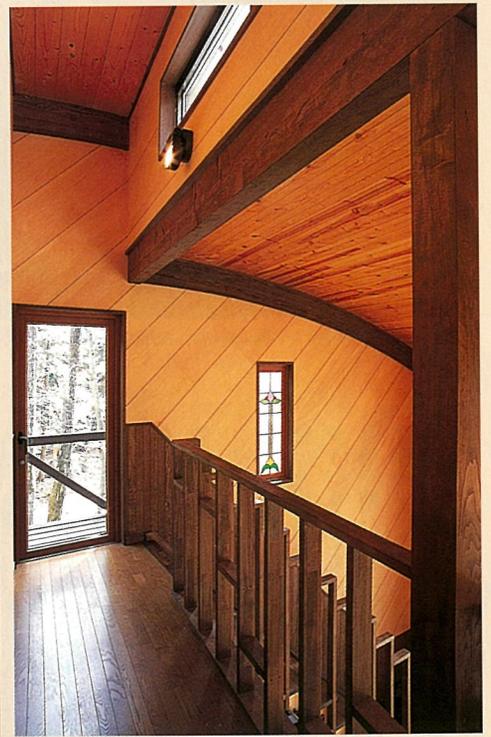
“竹”をモチーフとして作られた木造のチャペル。内壁に、十字架が表現されているのが分かります。

プ プラスアルファの居住スペース。その王道として「別荘」をあげるのには、極めてストレートな選択だと思いませんか？ とはいえ、年に何度使えるか分からないし、とてもではないけれど夢のまた夢……。確かにコレまた極く真つ当なご意見ですが、職場へ通う住まいを気楽な賃貸にして、週末に過ごす別荘を自分の思い描く理想的な週末住居とするスタイルはいかがでしょうか？ 都心とは比べ物にならないほど割安な土地代で節約した分を建築費にまわすコトができ、しかも自然を堪能できる素晴らしい環境を手に

入れることができる。そんな「ウィークエンドハウス・ライフ」を実現している米国紳士をご紹介します。東京の大学で助教をしているジャン・ブレゲンス氏は、職場にほど近い賃貸マンションから学校へ通い、週末は別荘で過ごすという、じつにうらやましい生活を送っています。東京から長野県は小淵沢にある週末住宅までの3時間は、便利な都会が、豊かな自然か」という対極の環境を手に入れる、有意義な小旅行です。「もしも20年前だったら難しかったかもしれないが、現代社会にはファクスもメールもあり



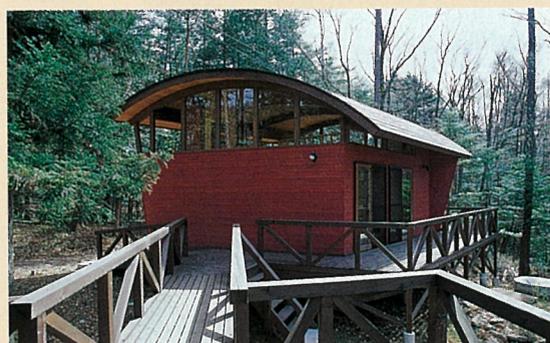
2階のギャラリーは、ハイサイドライトから陽光を取り入れることで、十分な採光を確保しています。



階段手摺り柱の流れを断ち切るコトなく、内壁にそのまま利用したデザインが見事です。



ブレゲンズ邸のリビング。窓越しにのぞく透明の庇は、伝い落ちる雨水の流れを楽しむことができます。



緑色の外壁を持つブレゲンズ邸に対して、対比的に赤褐色にペイントされたチャペル。

“水と自然を楽しむ家”は究極のワンモアスペース



NEW CLOSET STYLE SELECTION

ますから、原稿仕事なども簡単に送ることが出来ます。21世紀に感謝ですね」とブレゲンズさん。都会の喧騒とは無縁の「ウィークエンドハウス」では、限られた時間でも集中することができ、しかも自然散策で簡単に気分転換が簡単にできるとのコト。

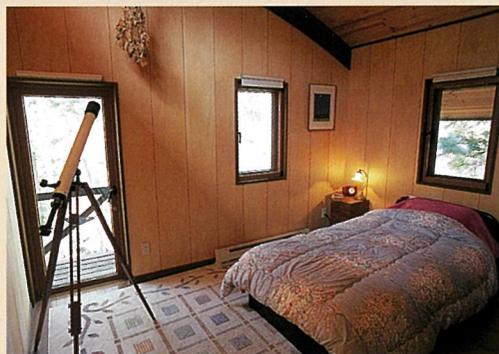
別荘の建設を依頼された建築家の連（むらじ）健夫氏は、まずブレゲンズさんが好ましいと感じる雑誌の切り抜きや写真などを、一枚のボードに自由に貼り付けてもらいました。目的は、癒され元気になる「心と対話する建築」を造る為に、デザイナーのヒントとして施主が普段意識していない「家に対する希望や嗜好」を浮かび上がらせるコトです。ブレゲンズさんのコラーージュには、子供の頃に住んでいた家を中心に、植物をイメージさせる「緑」がカラフルな線と形で表現されていました。そこから浮かび上がったコンセプトは「水と自然を楽しむ家」。唐松が横貼りされたクリーンの外壁や、傍らを流れる小川まで延ばされたデッキなど、建物を彩るディテールは、すべてコラーージュから生まれたイメージを具現化したモノなのです。

そして、ブレゲンズ邸の竣工から3年後に完成した増築棟は、連さんに手渡された1本の竹串がテーマとなっています。障子越しの優しい自然光がパンプの陰影を描き、内壁には縦貼りと横貼りをクロスさせた十字架が見下ろす離れは、和洋折衷のモダンジャパネス・スタイル。祖国と日本を愛するブレゲンズさんの心情をそのままに表現されているのです。

このアネックスは、ブレゲンズ先生を慕って教え子たちが大挙して訪れた時の合宿施設、また地域に開放されたチャペルとして、多くの人々の集うべき目的空間。別荘の別荘」とも言うべき究極のワンモアスペースは、ウィークエンドハウスでの週末を啓蒙する、最高の拠点となっています。



上／必要にして十分なバスルーム。湯船につかりたいときは、近くの温泉まで出かければOK。右上／リビング脇の一角。お客さんが多いときはエキストラベッドが用意されます。右下／チャペルにある洗面台は、陶芸家の林之成氏による作品。右／「すべてに満足です」と語るブレゲンス氏ですが、中でも寝室は特にお気に入りとか。ベッドに体を横たえと、ハイサイド窓を通じて降るような星空を眺めることができます。



Owner's check

お気に入りのポイント

この家のすべてが大好きですから、たったひとつあげるのは難しいです。建ててから5年経ちますが、ますます好きになりますね。

ちょっと失敗

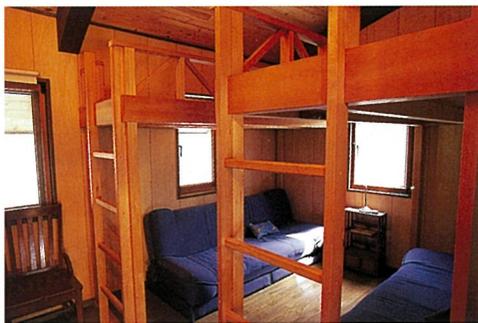
とても満足しているのですが、特に不満はありませんが、洗面の蛇口からお湯が出ればもっとよかったかもしれないですね。

読者へのアドバイス

現代は交通機関も発達していますし、通信手段もたくさんあります。週末住宅ライフは、難しいものではありませんよ。

造りつけの2段ベッドは 教え子のための合宿スペース

ウィークエンドハウスには、大学で教鞭をとっているブレゲンス先生を慕って、多くの教え子が訪れます。2階のギャラリー脇の一角には、造りつけの2段ベッドが用意されており、学生たちがステイすることができるようになっています。ブレゲンス氏が寝室に引き上げた後に、夜がふけるまで生徒が語り合う空間でもあります。



LOOK!



ご主人からひとこと

コラージュを作ると、自分でもなかなか気づかない“夢”が見えてきます。私は素晴らしい建築家と出会えるコトができたと言えるでしょうね。建物、環境、すべてに満足しています。

